

熊本 県人会

「ならでは」の支援は 馬刺しと「ごほんの友」で



「イエーイー」とノリが良い熊本県人会の皆さん。取材終了後、「せっかくなので熊本の馬刺し、食べて」と記者とカメラマンにも名物料理をおすそ分けしてくれました。 ※撮影協力／「ひじつ堂」

「京都熊本県人会の皆さんが集まってもらったのは、熊本名物馬刺しのお店。この春、こちらで同会による東日本大震災の被災地への「馬刺しチャリティー」が行われました。「自分たちなりの支援をしたい」との思いで、ふるさとの味をチャリティーに結びつけたのだそう。

「入会したのは1年半ほど前。ふるさとかから遠く離れて、家族も親せきもない。そんなとき、この会のことを知って懐かしくなり、参加するようになった。子どもたちにとっては、おじいちゃんやおばあちゃんがいらっしゃるかもしれない。なんて言ったら怒られるかもしれない。でも、ここで熊本のDNAを受け継いでほしいな、と思います」

「当日の売上金で、同じく熊本名物のふりかけごはんの友を購入。それを京都市を通して、被災地に届けてもらったんです。夫婦共に熊本生

まれば、熊本育ちです。「入会したのは1年半ほど前。ふるさとかから遠く離れて、家族も親せきもない。そんなとき、この会のことを知って懐かしくなり、参加するようになった。子どもたちにとっては、おじいちゃんやおばあちゃんがいらっしゃるかもしれない。なんて言ったら怒られるかもしれない。でも、ここで熊本のDNAを受け継いでほしいな、と思います」

「当日の売上金で、同じく熊本名物のふりかけごはんの友を購入。それを京都市を通して、被災地に届けてもらったんです。夫婦共に熊本生

まれば、熊本育ちです。「入会したのは1年半ほど前。ふるさとかから遠く離れて、家族も親せきもない。そんなとき、この会のことを知って懐かしくなり、参加するようになった。子どもたちにとっては、おじいちゃんやおばあちゃんがいらっしゃるかもしれない。なんて言ったら怒られるかもしれない。でも、ここで熊本のDNAを受け継いでほしいな、と思います」

「当日の売上金で、同じく熊本名物のふりかけごはんの友を購入。それを京都市を通して、被災地に届けてもらったんです。夫婦共に熊本生

まれば、熊本育ちです。「入会したのは1年半ほど前。ふるさとかから遠く離れて、家族も親せきもない。そんなとき、この会のことを知って懐かしくなり、参加するようになった。子どもたちにとっては、おじいちゃんやおばあちゃんがいらっしゃるかもしれない。なんて言ったら怒られるかもしれない。でも、ここで熊本のDNAを受け継いでほしいな、と思います」

ンバーは300人ほど。大学生や若い世代の社会人も増えてきたそう。「イベントをするときに、なんか、知り合いの熊本県人を『ちょっと手伝って』って引張ってくるんです。それで、『熊本弁で話すのって楽しいなあ』って思ってもらえらると、ね(笑)」(松塚さん)